

大分工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	校外実習
科目基礎情報						
科目番号	31C424		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	都市・環境工学科		対象学年	4		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	特に指定しない。 / 実習先の業務に関連する図書など。					
担当教員	帆秋 利洋					
到達目標						
(1) 社会性を身につけ、コミュニケーションができる。(実習証明書・実習報告会) (2) 実務を体験することにより、これからの授業に対する意義を一層深め、さらに将来の進路選択の一助となり得るように実習に取り組むことができる。(実習報告書・実習報告会) (3) 体験内容をまとめ、プレゼンテーションができる。(実習報告書・実習報告会)						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	企業等における技術者・研究者等の実務が認識でき、進路決定の参考として積極的に実習に取り組むことができる。		企業等における技術者・研究者等の実務が認識でき、実習に取り組むことができる。		企業等における技術者・研究者等の実務が認識できない。	
評価項目2	企業人としての責任ある仕事の進め方が認識でき、自主的に実習に取り組むことができる。		企業人としての責任ある仕事の進め方が認識でき、サポートを受けながらも実習に取り組むことができる。		企業人としての責任ある仕事の進め方が認識できない。	
評価項目3	実習体験内容を的確にまとめ、他者にわかりやすくプレゼンテーションができる。		実習体験内容をまとめ、プレゼンテーションができる。		実習体験内容をまとめることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 (D2) JABEE 1(2)(d)(4)						
教育方法等						
概要	(実践的教育科目) 校外実習は校内において学習できない現場の業務を体験することにより教室で修得した知識と現場の業務との結びつきを知って、事後の学習を一層充実させるとともに、将来の自分の進路を決定する際のてがかりの一助とするものである。 このためには校内の実験・実習において実施されている班単位の行動よりも、学生一人一人が独立した行動をとることが期待されるので、学生はそのつもりで判断、決定すること。 (科目情報) 教育プログラム 第1学年 ○科目 授業時間 30 時間 関連科目 都市・環境デザインⅠ、Ⅱ、プロジェクト実験Ⅰ(専攻科)、実務実習(専攻科)					
授業の進め方・方法	校外実習受け入れ企業等の紹介をするので希望する学生は申し込む。また、学生自身が実習先を探す場合は、高専の実習先としてふさわしいかどうかを学科で検討するので、事前に4年学級担任に申し出ること。実習は原則として夏期休業中に実施し、実習時間は30時間以上とする。					
注意点	(自学上の注意) (1) 実習先の業務についてあらかじめ調べておくこと。 (2) 将来の進路決定の参考になるように積極的に実習に努めること。					
評価						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス			
		2週	実習先の決定			
		3週	実習			
		4週	実習証明書・実習報告書の提出		実習後、実習証明書を教育支援係に提出する。実習報告書(教育支援係提出用1ページ、学科提出用2ページ)を作成し、教育支援係および4年学級担任に提出することができる。	
		5週	実習報告会		実習報告会において成果を発表する。	
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				

		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	前3,前4,前5
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	前3,前4,前5
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	前3,前4,前5
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	前3,前4,前5
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	前3,前4,前5
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	前3,前4,前5
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	前3,前4,前5
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	前3,前4,前5

評価割合

	実習証明書	実習報告書	実習報告会				合計
総合評価割合	30	40	30	0	0	0	100
基礎的能力	10	10	10	0	0	0	30
専門的能力	10	20	10	0	0	0	40
分野横断的能力	10	10	10	0	0	0	30